



Title	大阪外国語大学アジア太平洋論叢 第7号 序
Author(s)	赤木, 攻
Citation	大阪外国語大学アジア太平洋論叢. 1997, 7
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/99742
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

序

名称を『アジア学論叢』（創刊号～第5号）から『アジア太平洋論叢』（第6号～）へ変更してから2冊目となる本第7号は、本会を中心として推進している科学研究費基盤研究A「『アジア太平洋圏』文明の構築をめざして—相互認識を通しての共通の価値観の模索—」（課題番号07409004：研究代表者 赤木攻）の中間研究報告書を兼ねている。

目次を見ていただければわかるが、本号も多彩な内容となった。対象地域や年代にもずいぶん幅がある。おそらくは、今日のアジア太平洋地域を中心としたグローバリゼーションという新しい潮流が背景にあるのではなかろうか。新しい潮流を読み取るためにも、古い時代を訪ねてみたり、当該地域の外を旅してみるには必要なことであろう。また、海外や学外の研究者からすばらしい論稿が寄せられ、うれしい限りである。

ところで、この4月から大阪外国语大学の大学院は全面的に改革される。旧来の「外国语学研究科（修士課程）」は廃止され、新しく個性的な「言語社会研究科（区分制博士課程）」が発足する。この研究科のキーワードである「言語社会」とは、一言で言えば「言語を絆とした共同体」ということになる。つまり、外国研究＝地域研究においては、一般には国家ないしは民族社会などが研究対象単位とされることが多いが、我々は人間を人間たらしめている最高のものである言語を基盤とする社会、つまり「言語社会」を想定し、そこを新たな研究の足場に加えたいと考えている。もちろん、来る21世紀を睨んでの企てである。たとえば、「インドネシア語社会」とか「中国語社会」という視点からアジア太平洋地域にアプローチすれば、おのずと異なった局面が見えてくるはずである。

我々は、この新大学院の発足の契機に、意を新たにし外国研究にさらなる精進を重ねる所存である。大方の一層のご支援をお願いしておきたい。

1997（平成9）年3月

大阪外国语大学アジア太平洋研究会会長 赤木 攻